



おおくぼ

学校教育目標 ゆめにむかって かしこく やさしく たくましく
～ふるさとを愛し、志高く生きる、心優しい大久保の子ども～

令和2年6月1日第3号

さいたま市立大久保小学校

さいたま市桜区五関21

048(854)7636

男子119名女子111名 計230名

前向きに進む

校長 金子 要一

午前、午後を一日おきに登校する不規則なものですが、学校が再開しました。この状態が今日から12日(金)まで続きます。その後、15日(月)から平常授業を目指しますが、状況によっては変更もあります。まだまだ慣れない生活が続きます。

そんな今、私はある人のことを思い出しました。星野富弘さんという、詩人であり、画家でもある方です。以前、教科書やテレビにも取り上げられたりしていただきましたので、ご存知の方も多いでしょう。星野さんは、子どもの頃から**身体を動かすことが大好き**でした。なかでも、鉄棒やマット運動などの器械体操に夢中になりました。そして、大学を卒業してすぐ、中学校の**体育の先生**になりました。

先生になって2カ月半が過ぎたころ、いつものように器械体操部の顧問として生徒たちの指導をしていました。そして手本を見せるために**マット上で宙返り**をした時、**頭から落ちて**しまいました。失敗すること自体は、体操選手時代にもよくあったことなので、すぐに起き上がろうとしました。でも、**力が入りません**。体を動かそうにも、首から下の感覚すべてがなく、まったく動けない状態になってしまいました。星野さんは、**首の神経を損傷**するという**大けが**をしてしまったのです。

病院に運びこまれた星野さんは、高熱を出し、人工呼吸器をつけ、大手術を何度も受けました。辛く苦しい日々が一年以上続きました。それでも二年が経つころには、治療や周囲の看病のケアがあり、自分で呼吸ができるようになりました。でも、首から下は相変わらず動かすことができません。自分でトイレにも行けません。手も動かさないで食事も食べさせてもらわなくてはなりません。上を向いて横になり、**天井を見つめるばかりの日々**を過ごしていました。

体を動かすことが大好きで体育が得意な人が、これからの人生を首から下を全く動かさず、ずっと寝たきりで過ごさなければならないと知ったときの**絶望感**はどれほどでしょう。体育が得意でない人でも同じことです。もし、自分がそのようなことになったらどうでしょうか。耐えられるでしょうか。その苦しみは想像に難くありません。

でも、星野さんは、この苦しい状況をそのまま何もしないで続けるのではなく、気持ちを切り替え、**前向きに進む**ことを選びました。寝たきりだった生活を変えようと、**口にペンをくわえて文字を書く**ことを思いついたのです。星野さんはこの時のことを、「目の前がパーッと明るくなりました。」と本の中に書いています。でも、いざ書こうとしても、うまくいきません。上手にペンをくわえることができない、ペンを思うように動かさない、くわえたペンが落ちてしまい拾ってもらってまたくわえる……。口に血をにじませ、歯を食いしばって練習しました。そして、何年もの月日を経て、文字が書けるようになり、その後、絵も描けるまでになりました。

今でも星野さんの体の状態は変わっていません。でも、星野さんは花などの絵とそれに合った詩の**作品集(詩画集)**を何冊も発表するまでになりました。そして、星野さんの作品を展示する美術館が2つもでき、群馬県の名誉県民にもなりました。さらに作品は、日本だけでなく世界でも展示されています。

一度絶望の淵に立った人が、**前を向いて新たなことにチャレンジ**し、人々に感動を与える側に立ったのです。星野さんの姿は、今の私たちに勇気を与えてくれます。